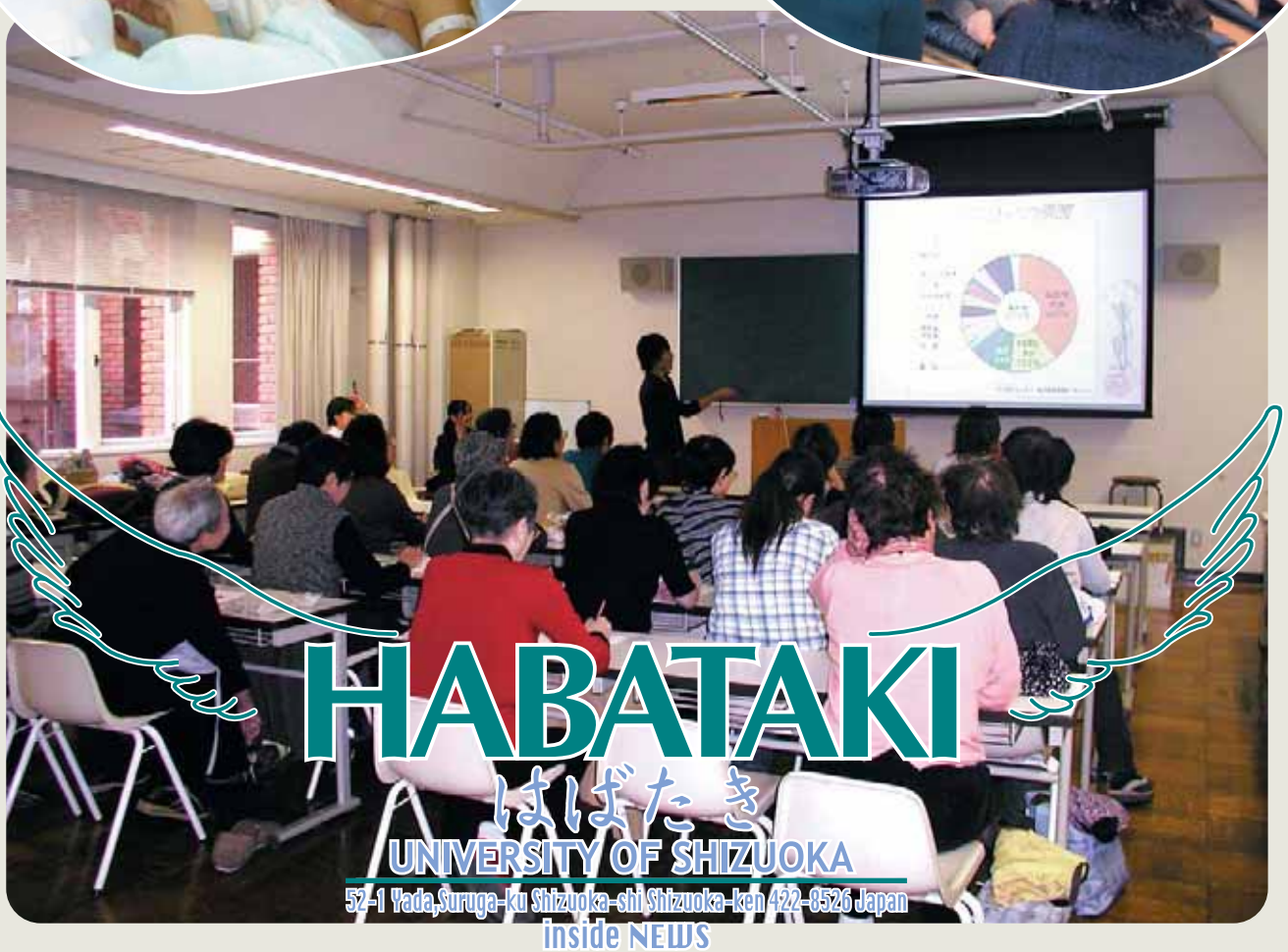
volume
105
MARCH
2008



HABATAKI

はばたき

UNIVERSITY OF SHIZUOKA
52-1 Yada,Suruga-ku Shizuoka-shi Shizuoka-ken 422-8526 Japan

inside NEWS

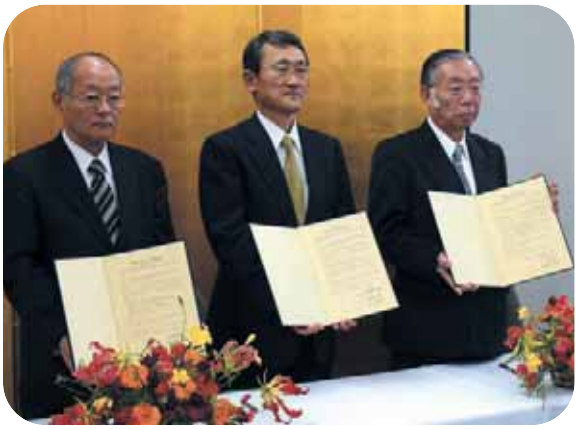
●CONTENTS●

公立３大学協定……1
社会人学びなおしニーズ対応教育推進プログラム委託事業……1
情報教育シンポジウム……2
環境システム研究発表会……2
しずおか新産業技術フェア2007……3
日本農芸化学会シンポジウム……3
静岡アジア・太平洋学術フォーラム……4
助産学実習……5
フランス留学の近況……6
MGIMOから短期交換留学生来学……6
厚生労働省研究助成採択実績……7
研究助成採択……7
受賞……8
図書館だより……9
卒業生のつどい……12
教員の人事……12
健康教室を開催……13
フィールドワークを実習……14
教員の著書紹介……15
静岡お好み焼き……15
クラブサークル紹介……15
管理棟新名称……15
寄稿募集……15

静岡県立大、名古屋市立大、岐阜薬科大　薬学分野で連携協定締結

静岡県立大学、名古屋市立大学、岐阜薬科大学は、薬学分野における東海地域の教育研究拠点の形成を推進することを目的として「連携・協力に関する基本協定書」を１月22日に締結しました。

調印式には、本学から西垣克学長、名古屋市立大の西野仁雄学長、岐阜薬科大の永井博弐学長らが出席し、協定書に署名しました。



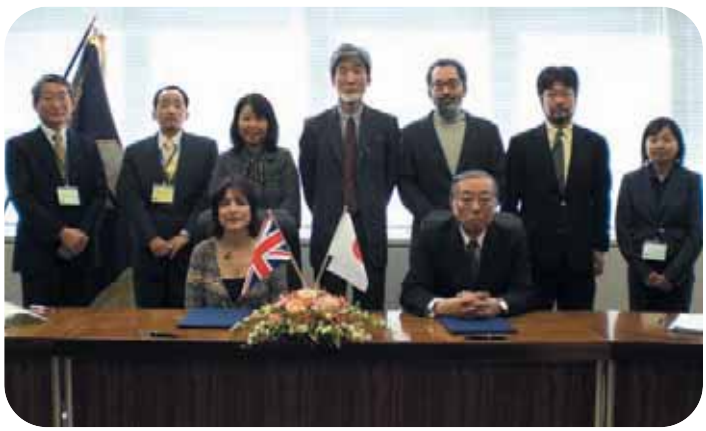
全国の公立大学で薬学部を設置しているのはこの３大学だけで、地域的にも近接する公立３大学が基本協定の締結を契機に、市民・県民に支えられる大学として、地域社会の発展及び福祉の向上に貢献してまいります。

連携・協力の第一歩として、医療現場で働く薬剤師に最新の知識・技術を提供する生涯学習プログラムの共同実施、薬学教育研究に関するシンポジウムの共同開催などについて具体的な検討を進めており、これらの事業を皮切りとして今後、共同研究の推進、単位互換など学生教育の充実、国際交流・産学官連携事業の共同実施、連携大学院の実施などにより教育研究拠点の形成を目指します。

文部科学省社会人の学びなおしニーズ対応教育推進プログラム委託事業

離退職保育･看護資格保有者のキャリアアップのための「HPS Japan」養成教育プロジェクト始まる

昨年の８月に「社会人学びなおしGP」が採択されてから、準備を進めてきたホスピタル･プレイ･スペシャリスト（以下「HPS」）養成教講座の第１クールが去る２月25日から始まりました。初日には開講式がおこなわれましたが、10名の受講生が英国から講師として招聘したHPS協会会長、ノーマ･ジュン･タイ氏のお祝いの言葉や、西垣学長の式辞を緊張した面持ちで聴いていました。



HPSは英国で活躍している病気の子どもを支援する専門職で、国認定の資格として多くの病院で活躍しています。遊びの技術を用いて、病気の子どもが病院でおこなわれる治療や入院生活を肯定的な経験として受け止められるよう、子どもを支援します。

遊びが子どもの成長発達に欠かせないことは誰もが知っている事実ですが、しかし残念なことに、わが国の多くの病院では、子どもがそこに存在しているにもかかわらず、遊びの持つ力が十分に理解されておらず、遊びを治療の一環として取り入れる取り組みは未だ不十分な現状です。

私たちは、平成21年度までの３年間で、離職している保育士と看護師を対象に、このHPSJapan養成講座を５クール開き、新しい技術と思考力を身に付けた受講生50名を世に送り出し、再び社会で羽ばたいてもらいたいと考えています。短大部の取り組みであるこの「社会人学びなおしGP」をどうぞ温かく見守ってください。

「静岡県立大学情報教育シンポジウム－高度情報リテラシ教育へむけて－」

情報センター長　経営情報学部 教授　池田哲夫

去る12月 6 日(木)に、経営情報学部棟にて、情報センター主催、経営情報学部・経営情報学研究科共催の「静岡県立大学情報教育シンポジウム－高度情報リテラシ教育へむけて－」が開催されました。シンポジウムの目的は、本学の情報リテラシ教育の改善に資することをねらいに、(1)大学入学以前の情報教育が急速に高度化されていることを講演によって理解し、(2)大学における情報リテラシ教育の今後のあり方をパネルディスカッションによって議論することです。

シンポジウムでは、まず、情報処理学会 情報処理教育委員会委員・初等中等教育委員会委員長の筑波大学大学院ビジネス科学研究科教授久野靖先生の講演「初等中等教育における情報教育の必要性と現状」と、情報処理学会 コンピュータと教育研究会・幹事の東京農工大学総合情報メディアセンター准教授辰巳丈夫先生の講演「高校の必履修教科「情報」による大学への影響」ではじまりました。

次に、これらの講演をうけて、情報センター特任教員経営情報学部准教授・湯瀬裕昭先生のコーディネートで上記 2 講師に情報センター特任教員経営情報学部教授・鈴木直義先生を交えて、「大学における情報リテラシ教育―入学前の情報教育をふまえて―」についてパネルディスカッションが行われました。

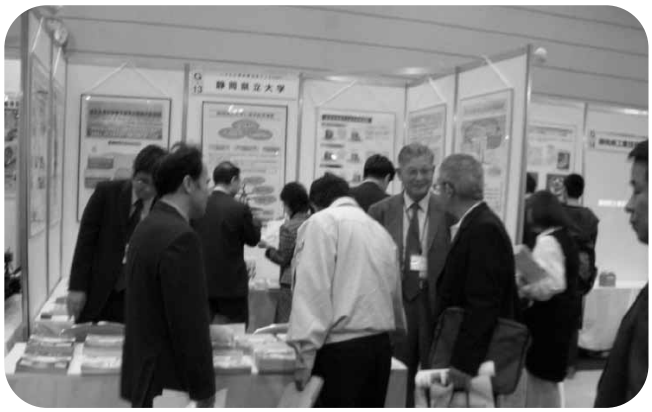
シンポジウムには本学各部局の教員のほか、県内他大学および高等学校からも多数の教員が参加し、それぞれの立場からの発言、質問があり、活発な議論が行われました。本シンポジウムによって、静岡県立大学における今後の情報リテラシ教育、すなわち「高度」情報リテラシ教育の実現へ向けての見通しが得られたと考えます。

第19回環境システム計測制御(EICA)研究発表会を開催

第19回環境システム計測制御(EICA)研究発表会

環境システム計測制御学会(通称EICA)は、平成19年10月18日と19日の両日、環境科学研究所 岩堀恵祐 教授(研究所長)が実行委員長となり、研究所との共催で、第19回EICA研究発表会を静岡県コンベンションアーツセンター・グランシップで開催しました。第 1 日目の研究発表会では、“モデル・シミュレーションと広領域”環境計測と資源・エネルギー”の両分野における査読論文の口頭発表、一般論文の概要・ポスター発表並びに人脈ネットワークの形成を目的とした未来プロジェクトⅡ「若手技術者・研究交流セミナー」の報告が行われました。松井三郎 EICA会長の挨拶と西垣克 学長のご祝辞の後、勝山裕之 静岡県空港部整備室長が「環境に配慮した空港建設」、岩堀恵祐 実行委員長が「埋立処分場の浸出水問題」をそれぞれ話題提供しました。第 2 日目には、富士山静岡空港の建設現場と駿河湾海洋深層水関連施設(静岡県深層水取水供給施設、焼津市深層水脱塩施設、静岡県水産技術研究所)を見学しました。参加者総数は約200名で、大変に盛況な研究発表会でした。

「しずおか新産業技術フェア2007」で本学の産学民官連携活動をPR！



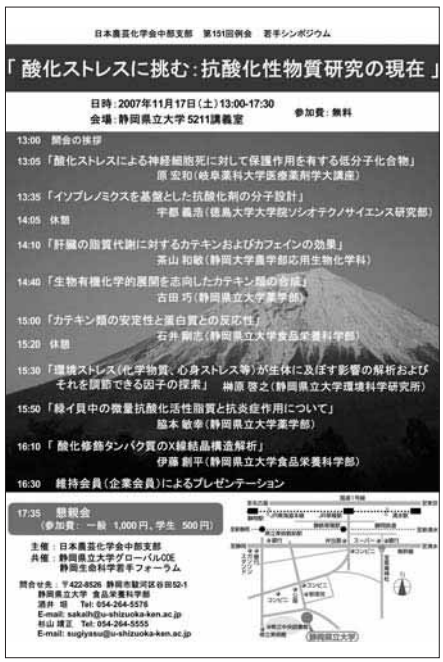
県内のベンチャー・中小企業や大学、行政機関等を一堂に集め、新製品・新技術等のPRや発表の場として開催される総合展示会「しずおか新産業技術フェア2007」が、11月 9 日（金）・10日（土）の 2 日間、ツインメッセ静岡にて開催されました。

オープニングセレモニーのテープカットには西垣 克学長も参加され華やかに開幕しました。85団体が参加した今回は、最新の情報技術の利活用促進を図る「しずおかITフェア2007」、デザイナーと中小製造企業の出会いの機会となる「デザインコラボ静岡2007」も同時開催され、フェア期間中4,215名の方々が来場されました。

本学のブースでは産学民官連携や文部科学省の都市エリア事業、グローバルＣＯＥプログラム等の概要や実績を紹介するパネルやパンフレット、研究の成果物を展示いたしました。その他にも多くの教職員のご協力により、本学と共同研究を実施している企業の開発製品の案内や新聞・雑誌等に掲載された記事の紹介等、多彩な資料を準備し公開することができました。その結果、約950名の方が本学ブースに立ち寄られました。ブース内においても、産学連携推進委員の先生方を中心に来場者からの質問に丁寧に答えていただき、分かり易くためになると大変好評を得ることができました。資料や物品の提供から運営参加に至るまでご支援ご協力を賜り、中小企業から一般県民まで多くの方々に本学の産学民官連携をＰＲできましたことをご報告するとともに感謝申し上げます。

日本農芸化学会中部支部 第１５１回例会 若手シンポジウムを開催

食品栄養科学部　助教　杉山靖正



平成19年11月17日（土）に本学小講堂にて、日本農芸化学会中部支部 第151回例会 若手シンポジウムが開催されました。このシンポジウムは、日本農芸化学会中部支部の主催で若手研究者の成果発表の場として毎年行われていますが、本年度は本学が開催地として選ばれ、農芸化学会に所属する本学教員により企画運営されたものです。

シンポジウムは「酸化ストレスに挑む： 抗酸化性物質研究の現在」をテーマとし、岐阜薬科大学の原 准教授、徳島大学の宇都 准教授、静岡大学の茶山 准教授の講演後、本学より古田 助教（薬）、石井 助教（食品）、榊原 助教（環境）、脇本 助教（薬）、伊藤 助教（食品）の順で最新の研究成果を発表しました。最後に維持会員（企業会員）によるプレゼンテーションとして 5 社の企業（アピ㈱、天野エンザイム㈱、太陽化学㈱、㈱ポッカコーポレーション、㈱ミツカン）が研究成果を発表しました。

当日は本学学生を含め、県内外の若手研究者など86名が来場し、酸化ストレスが細胞や生体に引き起こす悪影響とそれを阻止するための化合物に関した研究発表に熱心に耳を傾け、活発な討論が行われました。本シンポジウムは大学研究者と企業研究者の交流の場になったばかりでなく、若手研究者による熱意ある発表は、研究者を目指す学生に大変良い刺激をあたえる機会となりました。

第12回 静岡アジア・太平洋学術フォーラム開催される

国際関係学部　教授　西田ひろ子

平成19年12月８日（土）にグランシップにおいて、第12回静岡アジア・太平洋学術フォーラムが開催されました。このフォーラムのテーマは、昨今の現状（アジアや南米からの単純外国人労働者が急増している等）を踏まえ、「アジア大交流時代の到来－人・文化・創造」でした。このテーマの下に３分科会が構成されましたが、本稿では分科会１「多民族共生の課題と対策」について概観していきます。この分科会では、まず、池上重弘先生（静岡文化芸術大学准教授）に「日本における多民族共生の現状」について、統計資料を基に説明していただきました。議論のポイントは「多民族共生とは言っても、現実にはゴミ出し、騒音などの問題が各地で多発しており、多様な文化を認めあう以前に、共通のルールに則った社会生活を営むための基盤が形成されていない」とし、自治体による「社会統合政策」の重要性を訴えました。この政策は、外国人が日本社会の平等な構成員として生きてゆく力を身につけるための労働、社会保障、教育面での制度基盤を確立するというものです。続いて、ウェンディ・スミス先生（モナシュ大学マレーシア研究センター所長/オーストラリア）には、多民族共生のモデルとも言われるマレーシアの現状について話していただきました。マレーシアでの多民族共生は、歴史的にも（イギリスの植民地時代から始まっている）人口比率の点からも（マレー系約６割、中国系約３割、インド系１割弱）日本とは大分異なっているものの、日常生活の中で互いを認め合いながら生活するという多民族共生社会が確立されていますが、これを可能にしたのは「互いのコミュニケーションを可能にする環境基盤があること（特に都市部では異なった民族が隣同士で暮らしている）」「共通の言語を学習する機会があること（公立学校、民族学校で共通語としてマレー語、英語を学ぶ）」であるという説明をされました。さて、ヤング. キム先生（オクラホマ大学教授/アメリカ）には前述の２人とは異なった観点から「多民族共生」について議論していただきました。在日外国人が異文化（日本）に適応しようとする際、どのような心理的負担を抱えるかという異文化間コミュニケーション理論研究の説明を通し、外国人の側からの日本社会への適応の問題にも取り組まなくてはならないと訴えました。さて、これら３名の議論をいかに実際の「対策」に結びつけるかについて、石田 亨先生（京都大学情報学研究科教授）に「言語グリッド」の講演をお願いしました。しかし、「言語グリッド」という人工知能の話がどのように多民族共生の議論に関係してくるのかについて話す必要があるため、西田が現在取り組んでいる多民族共生プロジェクトの話をし、「言語グリッド」の議論へと結びつけました。このプロジェクトでは、さまざまな問題について異文化間コミュニケーション・トレーニングを実施し、日本人と在日外国人の間にある障壁を取り除き、より良いコミュニケーションができる環境を構築しようとするものです。「言語グリッド」はこのプロジェクトの一部として参加していただくことになっています。日本にやってくる外国人の文化背景は多様化しており、英語も日本語も理解できない人々が増えています。このような外国人あるいは外国人の子どもと「言語バリアフリールーム」でコミュニケーションをすると、インターネットにつながれたコンピューターによって会話ができるようになるというシステムが「言語グリッド」です。例えば、日本人教師が自分のコンピューターに「今日は君が掃除当番だよ」と打ち込むと、中国人の子どものコンピューターには中国語で表示される、というものです。

さて、今回のフォーラムでは、「多民族共生」をキーワードに、異文化間コミュニケーション学、文化人類学、人工知能といったさまざまな専門分野の先生方に「多民族共生の課題」を指摘していただき、さらに「いかに対処していくべきか」について議論しました。これらの議論が今後の多民族共生対策に活かさることを心より願っています。

助産学実習について

看護学部　母性看護学・助産学 助教　ウッド小池奈津子

静岡県立大学の助産師教育は、4 年間の看護教育の中で行なわれています。学習内容は妊娠期、分娩期、産褥期（産後、妊娠前の状態に戻る期間で 6 ～ 8 週間のこと）における女性と新生児を対象にした看護が中心です。学内で講義と演習を終えた後、実習が 4 年生の後期から始まります。実習期間は、2 週間の発展看護実習（助産学実習の準備実習）を入れて約10週間です。

妊娠期では妊娠中期にある初妊婦さんを 1 人受け持たせていただき、外来で実習をします。ここでは、妊婦さんの身体的、精神的、社会的、スピリチュアルな背景を多角的にアセスメントして、妊婦さんが妊娠期の変化にうまく適応できるように支援していきます。例えば、妊婦さんの血液データーで赤血球数とヘモグロビン濃度が低下しているとします。妊娠中は赤ちゃんに必要な栄養と酸素を送るために、循環血液量が増加しますが、血球量よりも血漿量の増加が多いため、血液は希釈された状態となり、貧血になりやすくなります。だいたいが鉄欠乏性貧血で、これは鉄の需要に、必要量が足りないことが原因で発生します。貧血の症状には眩暈（めまい）、疲労感、食欲不振、心悸亢進、息切れ、頭痛などがあります。貧血による母体への影響は、お産のときに陣痛が弱かったり（微弱陣痛）、長引いたり（分娩遷延）、出血が多かったり（弛緩出血、異常出血）、産後の回復が遅れて、母乳の分泌が良くないことがあります。胎児への影響としては、発育が遅れ（未熟児や低出生体重児）、胎児仮死を起こすことがあります。（母性看護学各論, 2007）

そこで私たちは、これらを未然に防ぐために、アセスメントして望ましい健康状態へと導くための健康教育を行います。健康教育には、妊婦さんがどのくらいの知識を持っているのか、学習レベルをアセスメントすることから始まります。この場合は、貧血の原因と影響、またそれを改善するための方法を知っているかをアセスメントしていきます。もし、知らなければ、妊婦さんのニーズに応じた健康教育を実践して、行動変容を促します。知識があり、望ましい行動がとれていれば、それを強化するためのフィードバックをしていきます。妊婦さんの学習効果は、身体的、精神的、社会的、スピリチュアルな反応となって現れます。健康教育の評価はこれをもとに行います。妊娠期は新しい家族を迎え入れるための大切な準備期間です。双方向性のコミュニケーションを通して望ましい健康状態について一緒に考えることで、妊婦さんが自分自身の健康に関する意思決定に携わっている、という自覚ができます。また、自分の健康状態について学び、今後予測されることを知ることで、お産という未経験への適応を容易にします。健康への関心を高めるための動機づけは、主体的なお産と積極的な育児への参画を促す大切な要素です。

分娩介助は10件行います。これは経験豊富な助産師とともに行います。夜間は待機で、お産の入院があれば実習をします。陣痛の期間は、分娩進捗状況と胎児のアセスメント、また産痛緩和と呼吸法を中心とした看護を提供します。産婦さんに寄り添い、励ましながら、お産に主体的に取り組めるように支援します。この時期を快適に過ごせることにより、安全で満足のいくお産へと導くことができます。

産褥期は全身が妊娠前に戻る変化と乳汁分泌があります。新生児は生理的変化を経て、胎外生活へと適応していきます。ここでは母親がパートナーとともに新しい役割を取得しながら、育児へ参加でき、新しい家族を迎えることができるように看護を提供しています。退院 1 週間後に妊娠期から受け持たせていただいている方の家庭訪問を行ないます。

日本における助産師の歴史は長く、周産期医療に大きく貢献しています。人間の尊厳と文化的背景を尊重し、女性が安全で満足のいくお産ができるという理念の基に、これからも助産師教育をしていきたいと思います。

フランス留学近況だより

国際関係学部 国際言語文化学科3年（リール政治学院派遣交換留学生）松浦愛子

9月に日本を発ってから4カ月が経ちました。初のヨーロッパ、留学、そして一人暮らし…何もかも初めてなので、日常生活の何気ない一コマにも未だに新しい発見があります。

例えば買い出し。こちらにはコンビニも100円均一もありません。大抵のスーパーではチーズの切り売りコーナーが常設です。ワイン・ジャム・スープも本当に多種多様です。最初は近所のスーパーでの買い物も心もとなく、辞書が必須でした。最近では近所のマルシェ（市場）や肉屋さんまで足をのばしています。そこで陽気なお店のご主人とお話しすることもしばしばです。野菜の値段や状態など、この頃は私も大体の相場が分かるようになってきました。あと、ぱっと値段を言われても何とか数字を聞き取れるようになったので、マルシェがぐんと身近になりました。

政治学院の仲間たち（右手前が筆者）

もちろん大学でも新しい発見がたくさんあります。特に日本語を学習しているフランス人学生とは、お互いの母語を学びあう良い機会に恵まれています。時々素朴な質問に意外と頭を悩ませたりしていますが、それが自分や母国のことを考えるきっかけにもなります。自然な形で学ぼうという意識が生まれるので、とてもいい刺激になっています。

年越しの瞬間のドゴール広場

私の通うリール政治学院には、100人以上の留学生がいます。私は彼らのようにフランス語も英語もできないので、最初はとにかく彼らの名前を覚えることに人一倍努力しました。おかげで今ではたくさんの友達がいます。学生同士のホームパーティに頻繁に招待されるので、一緒に楽しむ機会も多くあります。

更にリール政治学院の留学生交流サークルは、私たちのためにいろいろな企画をしてくれます。私は「ウェルカムパーティ」「リール観光」「ビール試飲会」「ユーロディズニーランド日帰りバス旅行」「オペラ鑑賞」などに参加しました。私は県大でIFC（留学生交流サークル）に入っていたので、「留学」について気付かされる点が多いです。

最近のイベントは何といってもクリスマス！
さすが本場なだけあって賑やかでしたが、12月25日は街中閑散としていて拍子抜けするほどでした。日本ではクライマックスだけれど、「家族とともに家で過ごす」のがやはり伝統なのだと実感しました。そのあとは新年のカウントダウンくらいだったので、お正月は日本のほうが格段に忙しいし豪華だと思います。今、1月中旬ですが、街中には未だにクリスマスのイルミネーションやマーケットが残っています。「一体いつまで続くのだろう」と、気になっているところです。

日本と違う所も同じ所も、私にとっては全てが嬉しい発見です。生活自体が日本にいたときの何倍も刺激的なのです。大変なこともあるけれど、私にこのような機会を下さり、応援して下さる皆さんには本当に感謝しています。残りの7ヶ月間のフランス留学生活をもっと充実させることが私の新年の抱負です。

国際交流協定大学から短期交換留学生が来学

県立大学と学術交流協定を結んでいるモスクワ国立国際関係大学（MGIMO）から1月16日に2名の短期交換留学生が来学し、それぞれ本学からほど近い静岡市駿河区内の家庭にホームステイをし、約2ヵ月間、国際関係学部の島田准教授の指導を受けながら留学生活を送りました。

今回来学したのは、同大学国際関係学部4年生のキレーエヴァ・アンナさんと同大学国際関係学部3年生のウリヤーノヴァ・アンナさんです。

キレーエヴァさんは、日中関係に係ることを卒業論文のテーマにする予定ということで、積極的に各種資料の収集を行うとともに、大学で学んでいる日本の言語、歴史、文化、文学、政治体制などにも興味をもって勉強していました。

一方、ウリヤーノヴァさんは、将来、大学院進学を目指しており、その際、日本に関連した研究テーマを選択することを想定して、日本の文化や経済などに直に触れ、関心をもって勉強していました。

2ヵ月の静岡滞在の間には、ホストファミリー宅で料理に挑戦したり、幼い子供たちの遊び相手をしたりと日本の家庭にも溶け込んで、楽しい毎日を過ごしたようです。

2人は、日本での様々な思い出を胸に、3月上中旬にそれぞれロシアに帰国しました。日本に関することをさらに学んで、近い将来、再び日本を、静岡の地を訪れたいと話していました。

平成１９年度厚生労働科学研究費補助金採択実績

【本学教員が主任研究者である研究事業】

研究者区分	部局名	職名	氏名	研究事業名・研究課題名
主任研究者	経営情報学部	教授	小山秀夫	研究事業名：長寿科学総合研究事業 研究課題名：介護保険施設におけるマネジメント理論の展開に関する実証的研究
主任研究者	経営情報学部	准教授	藤澤由和	研究事業名：医療安全・医療技術評価総合研究事業 研究課題名：国内外における医療事故・医事紛争処理に関する法制的研究

【他機関の研究者が主任研究者である研究事業】

研究者区分	部局名	職名	氏名	研究事業名・研究課題名
分担研究者	食品栄養科学部	教授	大島寛史	研究事業名：政策創薬総合研究事業 研究課題名：多様な生理活性を持つ機能性成分の安定化による新たな難治性疾患の予防および治療法の構築
分担研究者	看護学部	准教授	奥原秀盛	研究事業名：がん臨床研究事業 研究課題名：WEB版がんよろず相談システムの構築と活用に関する研究
分担研究者	環境科学研究所	教授	大橋典男	研究事業名：新興・再興感染症研究事業 研究課題名：リケッチア感染症の国内実態調査及び早期診断体制の確立による早期警鐘システムの構築
分担研究者	薬学部	教授	豊岡利正	研究事業名：医薬品･医療機器等レギュラトリーサイエンス総合研究事業 研究課題名：違法ドラッグの依存性等に基づいた乱用防止対策に関する研究
分担研究者	薬学部	講師	浅井知浩	研究事業名：医療機器開発推進研究事業 研究課題名：がん新生血管を標的としたAll in oneデバイスによる革新的siRNAデリバリーシステムとがん治療法の開発
分担研究者	薬学部	教授	山田浩	研究事業名：食品の安心・安全確保推進研究 研究課題名：いわゆる健康食品の安全性に影響する要因分析とそのデータベース化・情報提供に関する研究
分担研究者	薬学部	教授	奥直人	研究事業名：医療機器開発推進研究事業 研究課題名：シュガーチップを用いた検査・診断技術の開発
分担研究者	薬学部	教授	山田静雄	研究事業名：食品の安心・安全確保推進研究事業 研究課題名：いわゆる健康食品の安全性に影響する要因分析とそのデータベース化・情報提供に 関する研究
分担研究者	薬学部	教授	出川雅邦	研究事業名：食品の安心･安全確保推進研究事業 研究課題名：食品中の複数の化学物質による健康影響に関する調査研究
分担研究者	食品栄養科学部	教授	合田敏尚	研究事業名：食品の安心･安全確保推進研究事業 研究課題名：特定保健用食品の新たな審査基準に関する研究

平成１９年度厚生労働省がん研究助成金採択実績

【本学教員が主任研究者である研究事業】

研究者区分	部局名	職名	氏名	研究事業名・研究課題名
主任研究者	食品栄養科学部	教授	大島寛史	研究課題名：環境化学発がん物質の曝露評価法の開発と発がんリスク評価に関する研究

【他機関の研究者が主任研究者である研究事業】

研究者区分	部局名	職名	氏名	研究事業名・研究課題名
分担研究者	食品栄養科学部	助教	増田修一	研究課題名：新規化学発がん要因の探索とその生物活性
分担研究者	薬学部	教授	奥直人	研究課題名：がん組織の特異性を利用したドラッグデリバリーシステム（DDS）薬剤の基礎的・臨床的開発に関する研究

研究助成採択

平成１９年度(第３９回)内藤記念科学奨励金（研究助成）
研 究 者：代表　薬学部　教授　菅敏幸
研究課題：「顕著な生理活性を有する低分子化合物の合成と分子プローブ化」

平成２０年度　財団法人東京生化学研究会　国際共同研究助成・アジア地域研究者招聘
研 究 者：薬学部　生薬・天然物化学分野　講師　阿部　郁朗（招聘研究者・Radhakrishnan Edayileveettil）
研究課題：「植物ポリケタイド合成酵素の生合成工学」

平成１９年度（財）日本証券奨学財団研究助成
研 究 者：代表　経営情報学部　助教　上野　雄史
研究課題：「財務的リスク構造からみた退職給付制度のマネジメントー会計ビッグバンから新会社法施行までの企業行動の変化ー」

平成１９年度公益信託柴山大五郎記念合併処理浄化槽研究基金
研 究 者：代表　環境科学研究所　教授　岩堀恵祐
共同研究者：環境科学研究所　助教　宮田直幸（現　秋田県立大学生物資源科学部　准教授）
財団法人日本建築センター　設備防災課長　石原光倫（大学院生活健康科学研究科環境物質科学専攻D1）
財団法人日本環境整備教育センター　調査研究部主幹　小川浩（環境科学研究所客員准教授）
研究課題：集合処理及び個別処理としての生活排水処理システムに関する政策論的研究

平成１９年度住友財団環境研究助成
研 究 者：代表　環境科学研究所　教授　坂田昌弘
研究課題：「石炭燃焼起源物質のトレーサーとしてのホウ素同位体の有効性に関する研究」

平成１９年度　財団法人浦上食品・食文化振興財団研究助成
研 究 者：代表　大阪府立大学大学院　生命環境科学研究科　助教　赤川　貢
研究分担者：食品栄養科学部　助教　石井　剛志
研究課題：「ニンニクの健康増進作用を増強させるための加工・保存技術の開発」

受　賞

■平成２０年度日本薬学会学術振興賞を受賞

対象課題「天然物の生合成工学に関する研究」

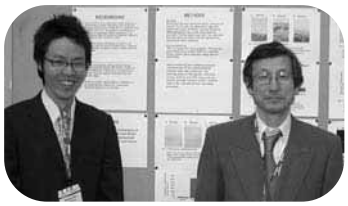
阿部郁朗講師

平成 19年11月15日、薬学部生薬・天然物化学分野の阿部郁朗講師は、日本薬学会の学術振興に寄与し、50歳未満で、世界的にも注目される発展性のある研究者に授与される同賞を受賞しました。同氏は、天然物分子多様性の起源の解明と有用物質生産を 2 つの柱とした、「生合成工学」ともいうべき新しい学問領域の開拓を目指しています。その研究成果は、天然物の生物有機化学領域において、ブレークスルーとなる重要な研究を数多く含んでおり、生合成工学という新しい分野の開拓・確立に貢献したものと評価されました。生物多様性の追求と有機化学の合体により、知の統合としての生薬学を先端科学として具現化しようとする試みであり、薬学の新しい方法論の可能性を実証しつつあります。斯界に寄与するところは頗る大きく、その先進性が評価されました。同氏は、現在、科学技術振興機構戦略的創造研究推進事業さきがけ研究員（代謝と制御領域）も兼任しており、今後もその発想力、指導力を生かした研究教育の更なる飛躍が期待されます。昨年 9 月の日本生薬学会学術貢献賞に続く受賞で、受賞講演は、日本薬学会第128年会で 3 月28日に、横浜市のパシフィコ横浜において行われます。

■ＪGN2アワード・アプリケーション賞を受賞

本学の研究グループ(経営情報学部鈴木直義教授、湯瀬裕昭准教授、渡邉貴之講師等)が参加している「動的再構成による大規模分散災害情報ネットワーク」の共同研究が平成20年 1 月17日にJGN2アワードのアプリケーション賞を受賞しました。この研究は、岩手県立大学、静岡県立大学、埼玉工業大学、岩手IT研究開発支援センター、北陸IT研究開発支援センター、北九州IT研究開発支援センター、本庄情報通信研究開発支援センターによる共同研究で、全ての研究参加機関に表彰状が授与されました。JGN2アワードとは、独立行政法人情報通信研究機構が運営するJGN2（Japan Gigabit Network 2）の 4 年間の研究開発活動において、特に優れた成果を上げたと認められる一般プロジェクトを表彰するものです。本学がJGN関連の研究で表彰されるのは、平成16年の東海総合通信局長表彰に次いで 2 度目です。

■日本腎臓学会・バクスター奨学金プログラムによるTravel Awardを受賞、国際学会に参加・発表


左側が北本君、小野教授と

大学院薬学研究科 分子疾患学講座 修士課程 北本 将幸君は、平成17年度から始まった、日本腎臓学会・バクスター奨学金プログラムによるTravel Awardを受賞して、小野教授のサポートのもと、Congress of American Society of Nephrology（米国腎臓学会総会、San Fransisco市開催、2007年11月 1 ～ 5 日）に参加、発表しました。当初は演題が採用されたものの、旅費の面から参加を躊躇していたのですが、受賞の知らせに参加を決めました。Effects of the herbal medicine Sairei-to on rat peritoneal fibrosis partly through suppression of oxidative stress（酸化ストレスの軽減を介した柴苓湯によるラット腹膜線維化抑制効果）という演題で、慢性腎不全の腹膜透析時の合併症である被嚢性腹膜硬化症 (EPS) への柴苓湯による治療の可能性を明らかにしようとするものです。当日は、本研究のポイントとなっているEPSモデルラットの腹膜において、この演題を通して質問者との質疑応答に参加することができました。

■機能性食品と健康増進作用に関する国際会議でポスター賞を受賞

左側が森君、中山教授と

大学院生活健康科学研究科食品栄養科学専攻・博士後期課程1年の森 大気君（食品機能学研究室）は、平成19年11月27～12月 1 日に京都で開催された機能性食品と健康増進作用に関する国際会議 (ICoFF2007)で、Poster Awardを受賞しました。この賞は40歳以下の優秀な若手発表者に贈られる賞であり、森君の「Protein oxidative modification with pyrroloquinoline quinone」のポスター発表が特に優秀なものであると評価されました。本国際会議は日本フードファクター学会 (JSoFF) を基盤学会として 4 年に 1 回開催されるもので、森君は昨年のJSoFFでのYoung Investigator Awardに続き、 2 年連続の受賞となります。

■国際O-CHA学術会議でポスター賞を受賞

右側が竹下さん、中山教授と

大学院生活健康科学研究科食品栄養科学専攻・修士課程 2 年の竹下裕子さん（食品機能学研究室）は、平成19年11月 2 ～ 4 日に本学で開催された第 3 回国際O-CHA学術会議 (ICOS2007)で、Best Poster Awardを受賞しました。 3 年に一度開催されるICOSは、茶の生産、効能、歴史、文化、流通分野における最新の研究成果を共有・議論することを目的としており、竹下さんの「Interaction of tea catechins with lipid bilayers investigate by immobilized artificial membrane chromatography」の発表は、本学から 2 題選ばれたものの 1 つです。

ほうじ茶や緑茶
アレルギー抑制
商品開発に弾み
製茶工程で発生の化合物作用

また、もう 1 つの受賞は大学院薬学研究科・修士課程 1 年の田中紫茉子さん（薬品資源学講座）で、同じくBest Poster Awardを受賞しました。発表演題は「Implication of Chafuroside A in commercial tea leaves by quantitative determination with LC-MS/MS」で、この研究の内容については、中日新聞にも取り上げられ、翌 5 日の朝刊で報道されました。

図書館だより

図書館では、平成19年度中期計画に基づき、親しみやすく魅力ある図書館運営をめざし、以下のような事業を展開してきました。

1　教育・研究実施体制等の整備

(1)　教育環境の整備

・利用しやすい図書館の情報管理システムの構築や、電子ジャーナル、データベースの充実を図りました。

・AVライブラリーの部屋を明るく利用しやすい環境に整備すると共に、海外衛星放送を見ることができる大型テレビの設置やビデオ、DVDなどの視聴覚資料の充実を図りました。

(2)　学習支援

・シラバスで紹介された図書や教員指定図書などの収集・整備に努めるとともに、学生の図書館及び情報活用能力の向上を図るために、各種講座や学内の行事にあわせた資料展示などを行いました。

(3)　研究実施体制の整備

学術文献資料と電子媒体資料の系統的整備を図ると共に、岡村文庫資料については、学術文庫としての活用を図るために、１階書庫に資料を集中配架し研究体制の整備を図りました。

2　地域社会との連携

・大学の防災拠点としての役割として、防災関連図書の充実に努めると共に、「静岡県防災士養成講座」開講にあわせ、当大学所蔵の防災資料を展示し目録情報を参加者に提供するなど、資料の利用促進を図りました。

・県民への図書館開放を引き続き行うと共に、短期大学部と連携して病院や医療機関の関係者に向けて講習会を実施するなど、学外者に対して図書館の有効活用を図りました。

3　その他の運営に関すること

(1)　事務処理の効率化

事務の効率化やサービスの向上に向けて、短大部図書館と共に図書館の情報管理システムの構築を行いました。

(2)　人権関係資料の充実

ハラスメントや人権に関する図書の充実を図ると共に、学内のセクシャル・ハラスメント相談員に向け、図書館所蔵関係資料の目録情報提供を行い資料の活用を図りました。

平成１９年度事業紹介　その１：「岡村文庫」の整備

平成19年度の大きな事業の一つであった、「岡村文庫」の整備についてご紹介します。

「岡村文庫」とは、現在の浜松市西区舞阪町舞阪を拠点として、『南ヴェトナム戦争従軍記』などの著作で知られている国際報道写真家、岡村昭彦氏（1929年～1985年）が収集した約16,000冊の蔵書のコレクションのことをいいます。

これらの資料は今まで一般資料と共に書庫に配架されていましたが、学内に「岡村昭彦文書研究会」が発足し、資料が集中配架できる書架が整備されたことにより、蔵書を１階書庫に移動し、岡村やその時代についてより調査研究がしやすい環境を整備することにしました。

岡村氏は国際報道写真家として活躍されると共に、ホスピス・精神医療・環境政策・主婦や看護婦との自主的な学習会活動に積極的に関わってきました。このような広範な岡村氏の活動内容を反映し、蔵書も幅広くさまざまな分野の資料が収集されています。特に、洋書（約3,700冊）や各企業の社史（約900冊）、個人伝記、医学、図書館関係の資料が多く収集されています。

移動整備冊数

NDC分類	冊数
000　総　記	743
100　哲　学	686
200　歴　史	3,047
300　社会科学	5,341
（内：社史）	(891)
400　自然科学	1,000
500　技術･工学･工業	1,737
600　産　業	1,340
700　芸　術	569
800　言　語	245
900　文　学	1,389

（1月31日現在）

今後は、「岡村昭彦文書研究会」により整備が進んでいる未公開資料や、海外生活で買い求めた絵はがき、地図などの興味深い資料を展示・公開し、学内外から多くの研究者の皆様に「岡村文庫」の資料を活用して頂きたいと思っています。

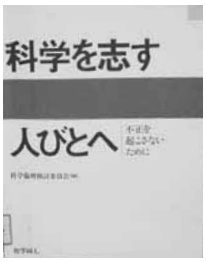
岡村昭彦氏は、私設図書館の建設を夢見ていたと云われています。「岡村文庫」には、そのような岡村氏の図書館建設の思いが伝わってきます。是非一度、附属図書館１階「岡村文庫」を訪ねてみてください。

シリーズ　『私の１冊の本』

図書館では、「私の1冊」と題して、先生方が今までに読んで、感動し心に残った本をシリーズで紹介しています。紹介された図書は県立大学附属図書館の書架に配架してありますので、まだ読んでいない方は是非この機会に読んでみてください。

五島 綾子　経営情報学部・経営情報学研究科 教授

紹介図書名：『科学を志す人びとへ　－不正を起こさないために－』
著　者　名：科学倫理検討委員会編
出 版 社 名：化学同人
ＩＳＢＮ：9784759811391
図書館所蔵：閲覧室２階 407/Ka 16



現代は倫理という言葉が氾濫する時代である。しかし倫理とは何であろうか。まず本書の著者の一人の松本三和夫が引用している胸に突き刺さる“倫理とその裁き”の一文を紹介しよう。「50がらみの羊飼いと10歳ばかりの一家の希望の一人息子がいる。ある日、父親の留守に、手負いの逃亡者が助けを求める。男の子は銀貨と引き換えに逃亡者をかくまう。直後、憲兵が差し出す銀時計に誘惑され、逃亡者を引き渡してしまう。ことの次第を知った父親は、息子に祈りを唱えさせる。そして、銃の引き金をひく」19世紀フランスの小説家O.Merimeeの小説だ。「裁きをつけた」。泣きすがる母親に、父親が放つ台詞である。ここでいう倫理とは“人の道”であり、人の道に外れた行いに対して“裁き”をつけたという意味である。しかし、日本学術会議の「科学者の行動規範」によれば、研究倫理とは研究者の仕事の現場を支える最低限のガイドラインであり、仕事によって日常的に鍛えられてゆく性質を持つとする。この点の理解こそがこの書物の肝心な点である。

本書は、2007年に学術会議の科学倫理検討委員会が編集した著作である。当代一流の異分野の研究者たちが重い課題を苦悩しながら取り組んだ様相が読み取れ、真摯な書物である。本書は“科学的不正を行わないための責任ある研究活動”の前提として、科学を志す若者から教授陣に至るまで“個としての力”を養うことと“異質”を受けいれることを一貫して主張している。

本書の冒頭、黒川清は、今日の日本の学生のひ弱さを台頭しつつある中国の学生と比較して論じている。従来の日本の大学への道は、入学試験の偏差値、どちらかといえば一つの正解への勉強が中心であった。大学は、「なぜかを考える」教育とはいえず、たしかに若者にとって好奇心をかき立てる場ではなかった。若者は、研究者の生き方を日常の指導や研究室の雰囲気、上下関係など日常から学びとるものである。しかし日本の大学は依然として村社会的要素が根強く残り、個人として勝負しているアジアの若者と比べ日本の若者に迫力がないのも無理からぬこととしている。

さらに松本三和夫は昨今の研究倫理の社会背景を科学における競争の視点で鋭く論じている。中でも興味深い点は、論文誌のインパクトファクターやサイテーション数などの素人のための機械的な支援ツールの一人歩きである。これを“科学研究の商業化”という。引用頻度の高い論文が優れた論文という仮説に立つ商業データベースによるランキングが科学研究の質の指標となり、研究予算などが決定され、肝心の専門家が論文を読んで真価を判断するプロセスが抜け落ちていることの指摘である。これが過激な競争と科学不正と関っているのではないかという問題提起である。そしてこのような事態をもたらした社会背景を正すために、社会と科学者の適正な関係にまで言及している。

最後に本書に引用されているマサチューセッツ工科大学の研究所長の言葉を若者に贈りたい。「似たような価値観の、とてもすぐれた人たちの集まった研究所は、新しいことを生みだす能力に欠ける。最悪だ。いかに多様な価値観の異質な人たちが集まるか、これこそが創造性の高い、すぐれた研究所の条件だ。」

本書は科学を自然科学と限定していない。学問を志す若者に読んで欲しい。

本学教員からの寄贈著書

図書館では、先生方に著作の寄贈をお願いしています。寄贈していただいた図書は図書館 2 階自由閲覧室に、「教員著書」として配架してあります。「教員著書」も一般の図書と同じように借りることができますので、先生方の最新の研究成果に触れてみてください。

平成19年12月から平成20年１月までに寄贈していただいた資料は次のとおりです。

・熊谷 裕通 教授（食品栄養科学部栄養生命科学科）
『これからの管理栄養士のためのカルテの読み方 －検査値と数式の理解を中心に－』熊谷 裕通著 カザン 請求記号 498.58/ku33
・小久保 康之 教授（国際関係学部国際関係学科）
『EUの国際政治 －域内政治秩序と対外関係の動態』田中俊郎、小久保 康之ほか編著 慶応義塾大学出版会 請求記号 319.3/ E 84
・小浜 裕久 教授（国際関係学部国際関係学科）
『近代経済成長を求めて －開発経済学への招待－』浅沼信爾、小浜裕久著 勁草書房 請求記号 333.8/A 87
・栗田 和典 教授（国際関係学部国際言語文化学科）
「民衆・犯罪・処刑」栗田 和典著（『江戸とロンドン』（別冊都市史研究）所収）山川出版 請求記号 361.78/ko73
・伊集 守直 講師（経営情報学部経営情報学科）
「税制改革の将来構想」伊集守直ほか著（『希望の構想』所収）岩波書店 請求記号 342.1/J52

平成１９年度事業紹介　その２：図書館情報管理システム整備事業

４月から、図書館の情報管理システムが新しくなり、ＯＰＡＣ（オンライン蔵書検索システム）の画面が変わります。今まで以上に利用しやすいシステムとなります。大きく変わるところは次の通りです。

１　蔵書検索

詳細検索と簡易検索に分けて検索できます。詳細検索では検索条件が指定でき、「すべてを含む／いずれかを含む／いずれも含まない」を選択できます。検索結果の一覧の表示方法を指定することもできます。

２　ブックマーク

検索結果一覧や検索結果詳細ページでチェックした資料の目録情報を保存でき、ファイルに出力したり、マイホルダへ登録したり、電子メールで送信することもできます。

３　予約

貸出中の資料は、自宅のパソコンや携帯電話から予約することができます。利用者ＩＤとパスワードを入力してログインし、県立大学、または短期大学部附属図書館を受取場所に指定できます。

４　返却

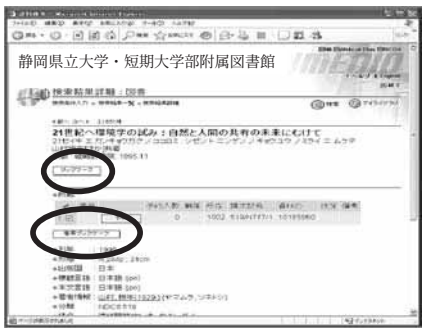
今までは借りた資料は借りた図書館へ返却していましたが、これからは短期大学部で借りた資料を県立大学に返したり、県立大学で借りた資料を短期大学部に返すことができます。また、自宅のパソコンや携帯電話から資料の貸出期間を延長することもできるようになります。

OPACの画面が変わります　ＯＰＡＣの使い方：①詳細検索画面で検索条件を指定し、検索をクリックします。
②検索結果一覧の中から確認したい資料名をクリックします。
③検索結果詳細の画面で資料情報や貸出状況を確認します。

①（詳細検索画面）

②（検索結果一覧）

③（検索結果詳細：図書）



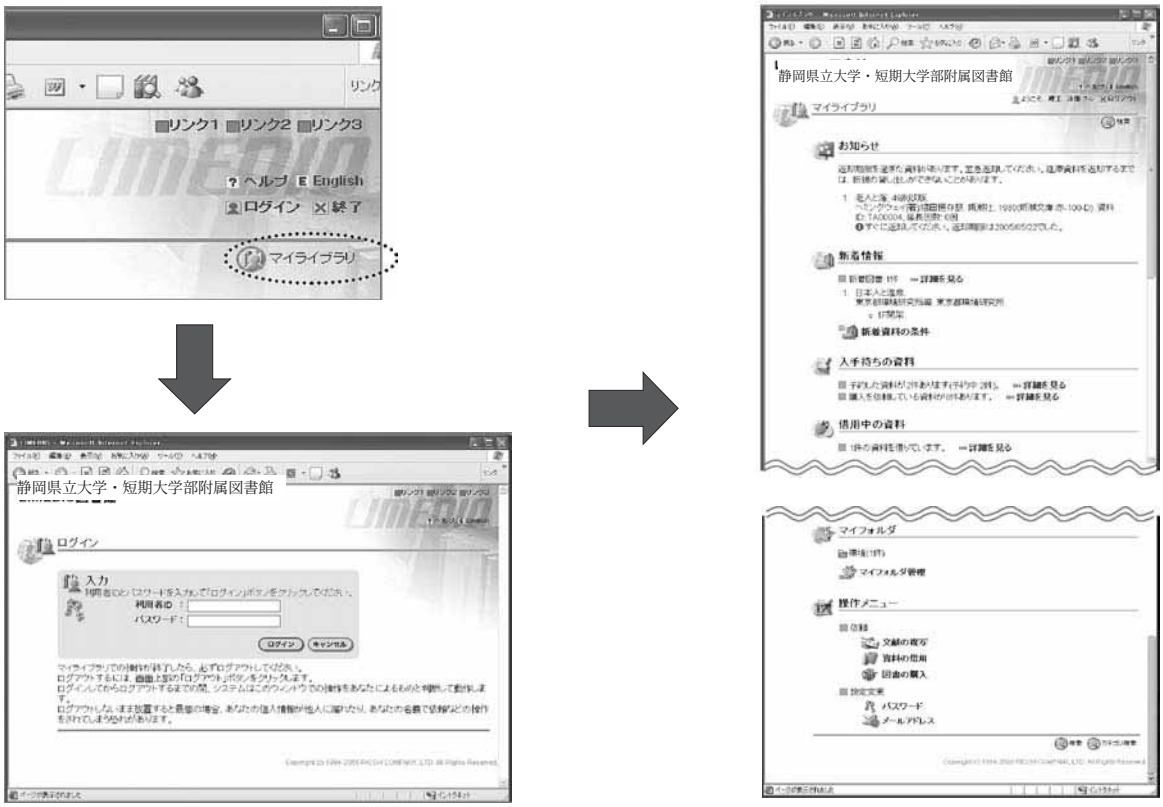
③（検索結果詳細：雑誌）

５　マイライブラリ

「マイライブラリ」とは、図書館の情報に関する、あなたの個人のページ（ポータルサイト）です。
図書館から皆さんへのお知らせ、新着情報、あなたが図書館に依頼した事項の状況、借りている資料の冊数などが確認できます。また、「操作メニュー」からＩＬＬ（相互貸借・複写）の依頼ができます。

マイライブラリへのログインの仕方

ＯＰＡＣ画面の「マイライブラリ」をクリックして、利用者ＩＤとパスワードを入力してログインボタンをクリックします。パスワードは学内コンピュータのユーザＩＤと同じです。今お使いの「ＩＬＬ」申込時のパスワードは４月から使えなくなります。学生、院生、教員、事務職員以外の学内利用者は「利用者カード」を提示して図書館カウンターでパスワード発行の手続きをしてください。利用後は必ずログアウトしてください。



（紹介した画面は、原稿作成時の予想画面です。完成時の画面とは少し異なりますがご了承ください。）

図書館システムの変更に伴い、図書館の利用講習会を予定しています。日程等は図書館ホームページ等でお知らせします。多くの方のご参加をお待ちしています。

卒業生のつどい

看護学部では有志の教員（退職した教員も含む）と同窓会の協力によって、「卒業生のつどい」を毎年秋に行っています。今回で５回目を迎えました。毎回の参加者は20名程度ですが、卒業年度を越えて小グループでの話し合いを行っています。話の内容は様々です。「こんな看護職を目指している」「こんな勉強を今後する予定」といった前向きな内容から、「今の職場で傷ついている」「やりがいがもてない」などの課題まで様々です。

特に就職１年目の卒業生にとって先輩達は、共感し様々なアドバイスを提供してくれる温かい存在であり、自分も理想の看護職になれるかもしれないという希望を持たせてくれるロールモデルとなっているようです。

懐かしい学びの場に戻り旧知の教員や同級生と会えること、利害のない先輩とのざっくばらんな話し合いがこの会の魅力かと考えています。

（看護学部有志教員）

教員の人事

（２月１日付）
関川貴寛　助教（環境科学研究所）

（３月１日付）
諏訪一幸　教授（国際関係学部）

地域に貢献！本学学生による健康教室を開催

●食品栄養科学部　栄養学科3年　山内浩之

食品栄養科学部栄養学科３年生は、昨年度に引き続き今年度も地域貢献活動として中・高年女性を対象に平成19年11月20日(火)午後に健康教室を開催しました。今年度はテーマとして『骨粗鬆症』を取り上げ、骨粗鬆症とその予防に関する講義、カルシウムの多い食材を使った料理教室、骨密度測定を実施しました。私は料理教室の責任者として挨拶をする機会がありましたが、対象者を前にして大変緊張し、学内での模擬演習とは比べものにならない程、発言や行動に対する責任の重さを実感し、非常に良い経験となりました。参加者の多くは健康への関心が高く、講義、実習に熱心に取り組んでくださったのでとてもやりがいを感じました。また、これまで健康にそれほど気をつけていなかった方からも、今回の教室への参加を機に食生活を見直したいというご意見が多く聞かれ、学生にとっても、参加者にとっても非常に有意義な健康教室になり大変うれしく思いました。

実習を終えて、反省点や来年に向けての課題も明らかになりました。来年は今年以上の健康教室を目指し、さらに地域の人々の健康増進やQOLの向上に役立つものになっていくことを望みます。

●食品栄養科学部　栄養学科3年　三松泰子

参加者の皆さんには、講義を通し骨粗鬆症の予防には、カルシウムの十分な摂取とその吸収を高めるビタミンKとビタミンDを多く含む食品の摂取が重要であることを学んでいただき、それら栄養素を含む食材の調理方法を料理教室で体験してもらいました。学生は主食・主菜・副菜・デザートの各班に分かれ、それぞれレシピ作成から栄養価計算、当日の調理実習までを担当しました。準備段階で何度も試作を繰り返し、手軽に作れて、おいしく、栄養価も高い12品の料理を考えました。今回の教室は、私たちにとって初めての体験で不安でしたが、当日は参加者に胸を借りるつもりで臨みました。実習が始まり、張り切って調理をなさる姿や、積極的に質問をされる参加者を見て、とても嬉しくなりました。今回の健康教室を経験して、知識を正確にわかりやすく伝えることや話しかけやすい雰囲気を作ることがいかに大切かを知りました。

参加者の方々には、参考になった、家庭でもやってみる、楽しかった、などの感想をいただき、私たちにとっても大変励みとなりました。来年も多くの方々に健康教室に参加していただき、地域の方々との交流がさらに深まることを期待します。

当日実習したメニュー

主　　食：しらすの混ぜ寿司・鮭ときのこのリゾット
主　　菜：鮭のグラタン・スキムミルク入り鶏つくね
副　　菜：スキムミルク入り南瓜サラダ・大豆とひじきとじゃこのかき揚げミルク味噌汁
　　小松菜としめじのおろし和え・ふりかけ
デザート：チーズinみたらし団子・胡麻あん豆腐団子・ミルク芋ようかん

＜健康教室参加者の感想・意見＞

・牛乳嫌いの私には「骨粗鬆症」という言葉がいつも胸に刺さっていました。今日のメニューのほとんどに牛乳やスキムミルクが使われておりましたが、私にもすんなり食べられ、目からうろこが落ちる思いでした。教わったメニューを家でも早速作ってみたいと思います。学生のハキハキした対応に気持ちよく実習させていただきました。本当にありがとうございました。
・どの料理にも牛乳、酢などが隠し味として使われており、学生さん達が苦労して作ったメニューだと思いました。昨年同様、今回もとても良い企画だと思います。これからもずっと続けて下さい。
・骨粗鬆症についてとても分かりやすく講義をしていただきました。カルシウムやバランスの良い食事の大切さを勉強しました。
・骨密度の測定結果は同年齢の140％と出て、とてもびっくりしました。これからも意識して牛乳、ヨーグルトを毎日しっかり摂ります。

フィールド体験　伊東の地域社会と交流

国際関係学部授業科目「社会調査法Ⅳ・Ⅴ」　　国際関係学部　准教授　湖中真哉

本学、国際関係学部・国際関係学科の授業科目「社会調査法Ⅳ・Ⅴ」では、平成 6 年度以降14年間にわたって、静岡県内の地域社会を対象として、社会調査の実習を実施しています。これまで、旧大東町、熱海市初島、静岡市、旧清水市、浜松市天竜区、伊東市など静岡県内の全域に及ぶ地域を対象としながら、「在日外国人問題」、「離島と観光開発」、「高齢化社会における民俗技術の伝承」、「地域通貨を活用したコミュニティ再構築実践」、「女性を主体としたNPO法人による地域興し」などをテーマとして、「野外調査（フィールドワーク）」の実習を行ってきました。過去の受講生のなかには、こうした社会調査の体験を活かして、現在、NGOのフィールドワーカーとして、海外で活躍している人もいます。

本年度は、観光・保養都市として知られる伊東市の地域社会を対象として、観光の振興と市民団体の活動を中心的なテーマとして、12月 3 日から 6 日まで 3 泊 4 日の合宿形式で、社会調査実習を行いました。各自の調査テーマは、旅館の接客、外国人観光客への対応、地元メディア、環境保護運動、地域通貨など様々な領域に及んでいます。また、今回は、伊東市の皆様の御厚意で、受講生 4 名が、伊東温泉観光・文化施設「東海館」にて、「伊東温泉お座敷文化大學」に参加し、貴重な芸者体験をすることができました。本学の実習授業は、地元メディアでも取り上げられ、『伊豆新聞』平成19年12月 6 日付けに、「伝統文化を体感　県立大生が芸者姿体験」と題する記事がカラー写真入りで掲載され、同新聞12月13日付にも、「思い出の「芸者体験」」と題する記事として、再びカラー写真入りの記事が掲載されました。

以下に、「伊東温泉お座敷文化大學」に参加した受講生の感想を記します。

東海館前で記念撮影

●国際言語文化学科3年　上野咲恵

私は小さい頃、芸者さんに憧れていたため今回の芸者体験は貴重な体験となりました。自分が芸者に変身していく様子にはワクワクしました。このような貴重な体験をさせていただいたことをうれしく思います。

●国際関係学科2年　上村美紗

伊東で初めて芸者体験をしました。最初は「こんな体験めったにできない!!!!」とただ単純に楽しみで、ワクワクしていました。でも私にとっての芸者体験はただのコスプレではなく、芸者であることを誇りに思って生きている女性のかっこよさを感じることができた貴重な体験になりました。

●国際関係学科2年　大坪恵

本格的に着付け・メイクをしてもらうことが出来、またポーズ指導を受けながら写真も撮って頂けて、まるで本物の芸者さんになったような気分でした。伊東の伝統文化を直に感じられる、とても貴重な体験が出来たことにとても感謝しています。

●国際関係学科2年　鈴木絢女

お座敷文化大學では、名前の通りまず入学願書に源氏名を決めて申込むところから始まりました。そして、館内随所に建築美が光る東海館で芸者さんに着付けとお化粧をしてもらい、お茶も頂き大変充実したものでした。一緒に伊東の調査をした留学生達も「私もやりたい!」と大変興味を示し、世界を魅了する素敵な文化をもつ日本の良さを改めて実感した一日でした。

芸者の歩き方を学ぶ

教員の著書紹介『ＥＵの国際政治―域内政治秩序と対外関係の動態―』

慶應義塾大学出版会　全355頁　2007年12月15日刊行　定価3,800円
国際関係学部　教授　小久保康之

ヨーロッパ諸国は、国民国家体系の限界を乗り越え、国家間の協力関係を「ＥＵ（European Union）」という枠組みにより確実な制度として築き上げることにより、平和と経済的繁栄を獲得したと言ってよいでしょう。そのＥＵという国際機構は、伝統的な国際機構とは異なり、加盟国が主権の一部をＥＵに移譲し、超国家的な主権の共同行使を行っています。しかしながら、ＥＵは「国家」ではないし、「国家」になることを目指しているのでもありません。最近の日本におけるＥＵ研究では、そうしたＥＵの特殊な政治システムを独自（sui generis）の政体（polity）と捉えたり、ヨーロッパ・ガバナンスの視点から説明しようとする試みが多くなされています。本書は、そうした新しい研究動向を踏まえつつも、ＥＵ統合は基本的には国際政治現象として捉えるべきではないか、という問題意識から出発しています。ＥＵの政治システムをどのように理解すべきなのか、世界中の政治学者が諸説を唱えている中で、敢えて古典的な国際政治の視点からＥＵ統合の実態に迫ってみました。

「静岡お好み焼き」が全国第１位！

オタフクソース㈱が全国の大学を対象に募集した第６回「夢のお好み焼きコンテスト」において、本学剣祭実行委員会のOB、OGが考案した「静岡お好み焼き」が第１位に選ばれました。この「静岡お好み焼き」は、桜えび、黒はんぺん、餃子、うなぎなどの静岡県の郷土特産品をお好み焼きの具としたもので、２月１日、本学体育館前において行なわれた表彰式では、オタフクソース㈱の武本名古屋支店長から表彰状が授与されるとともに、「静岡お好み焼き」の試食会が行われました。

クラブサークル紹介　漫画研究会

私たち漫画研究会は、コピー本を含み年５冊の部誌を作っています。また今年度から活動をさらに広げるために、年に二回東京ビックサイトで開かれているサークル参加者数3万5000人、一般参加者数延べ51万人となるコミックマーケット（通称コミケ）に参加（部誌を出展）しました。この写真は12月31日の冬のコミックマーケット（C73）に参加したときのもので、その時の私たち県大漫画研究会のブースで撮影したものです。また、この他にも静岡ツインメッセで開催されたコミックライブにも参加しました。今年もコミックマーケットやコミックライブに参加して、私たち漫画研究会の活動を広めていきたいと思います。

管理棟新名称「はばたき棟（キャンパスセンター）」に決定！

西垣学長と入賞者の皆さん

管理棟の新名称を学内で募集したところ、多くの応募があり「はばたき棟（キャンパスセンター）」と決定しました。去る２月４日に表彰式があり、特賞の看護学部の山本恵美子さんをはじめ、入賞者に賞品が授与されました。

なお、新名称は平成20年４月１日から使用します。

学内ニュース「はばたき」への寄稿を大歓迎！

教職員・大学院生の皆様の受賞、研究助成への採択、学会・研究集会の案内、クラブ・サークル活動報告、ボランティア活動などの寄稿をお待ちしています。大歓迎します。
教育研究推進部・広報室あてにお願いします。E-mail:koho@ u-shizuoka-ken.ac.jp

企画・編集：静岡県立大学広報委員会（事務局　ＴＥＬ　０５４－２６４－５１３０）
静岡県立大学ホームページアドレス ： http://www.u-shizuoka-ken.ac.jp